



あっちの話

宮崎
から

竹ぼうきで田んぼの除草＆根張り強化

見崎義顯



日向市の安藤るみ子さんは竹ぼうき除草を始めて10年になります。使るのは先端の軟らかい部分を切り取った竹ぼうき。硬くてボサボサのほうが、水底をしつかり引っ掻けて除草効果が

上がるからです。

タイミングは、田植えから15日後と30日後。だいたいこの2回で雑草がまったく生えなくなっているといいます。イネをまたぎ、ほうきで左右に掃きながら前進。イネが植わっていてもお構いなし。水は濁り、小さな草は抜けてどんどん浮き上がります。抜けにくいヒエはほうきで叩かれて折れ、水面から顔を出せなくなつて枯れていきます。もちろんイネもほうきで倒されます

が、こちらは1週間で起き上がります。

さらにすごいのは、ほうきで「いじめた」イネたちは根張りがよく、そんじょそこらの台風では倒れない丈夫なイネに育つてくれるそうです。いじめるといいますが、これも愛があるからこそ。農業愛にあふれるお母さんのお話でし

鹿児島
から

ショウガ畑の風よけに、ソルゴーよりもテオント

上野亮太

畑の風よけにはソルゴーがメジャーですが、霧島市でショウガをつくる竹ノ内久義さんは、

昨年、トウモロコシの祖先種といわれる「テオント」を植えてみました。ショウガの作付け

が増えて、防風ネットが足りなくなつたのですが、ソルゴー垣だとショウガの主要病害虫アワノメイガの繁殖が心配だつたからです。

かつて馬を飼っていた竹ノ内さん、エサ用にソルゴーとテオント、両方育てていたことがあるそうです。ソルゴーはどうしてもアワノメイガにやられましたが、テオントには甘みがないのか、アワノメイガがまったく寄らなかつたという記憶があります。

テオントの草丈は3mでソルゴーと同じくらいですが、株元からよく分けつします。薄播きし、1mまで育つたら一度刈り込むことで、

株が大きく丈夫に生長。昨年の台風もなんとか乗り切ることができたそうです。





あっちの話

熊本
から

アスパラガスのウネに竹を置いてみたら

原敬介

山鹿市でアスパラガスを20年近く栽培している西田正孝さんは、心身ともに若さあふれる御

年84歳のベテラン農家です。ハウスに入ると何やら見慣れない光景が……。なんとウネと通路を仕切るように一直線に孟宗竹が並べられていました。

「こうしておくと、いろんな作業がラクになるんだ」と西田さん。どうやら竹を置くことでウネが崩れず、栽培期間中の手直しが省けるし、収穫でしゃがむ際にも竹に膝をついて体重をかけられます。

竹はずっと置いたままで、3年は持ちます。腐りにくいのは、新暦の七夕が過ぎた新月の日に切ってきた竹だからでしょうか。

かがむ作業が多くて大変なアスパラガス栽培ですが、竹を置くだけで通常よりも長く続けられるかもしれない……。ベテラン西田さんの工夫に小生脱帽しました。

三重
から

葉物野菜がぐんぐん伸びる発酵タケノコ液肥

櫻井歓太郎

前に「発酵カルシウム」を誌上で紹介してくれた津市の川原田憲夫さんに、今度は発酵タケノコ液肥の作り方を教わりました。



材料のタケノコは、採り遅れで大きくなつたものでも何でもいいそうです。皮をむいて乱切りにしたら3000ℓのタンクいっぱいに詰め、すぐにヨーグルト400gと糖蜜30ℓを投入。その後に水をひたひたになる程度に注ぎ、日陰で4カ月保管。ひと夏を越し、いい香りがしてきてタケノコが下に沈んだら完成です。

布で漉した液を基本1000倍に薄めて使います。生長ホルモン（オーキシン）が促進されるのか、葉物野菜の生長点に散布すればぐんぐん大きくなるそうです。

「みんながこれをつくれば放置竹林も減つていくと思うんだよね」と川原田さん。発酵タケノコ液肥は発酵カルシウムとの相性もよく、うまく組み合わせると、暑さ寒さの生育限界温度を超えて元気に生長できるようになるそうです。



あっちの話

埼玉
から

ヨモギオイルでお肌しつとり、赤ちゃんにも

堀籠勇希

春になるとヨモギをどつさり採ってきて、草もちやだんごを作る小鹿野町の黒沢敏江さん。やわらかい新芽部分を中心には、1年分を摘んでしまいます。娘の飯沼泉さんにも分けてあげると、泉さんはヨモギオイルを作ったそうです。

赤ちゃんのアトピーに困っていて、ヨモギオイルが肌荒れを防ぐとインターネットで知ったからだとか。

材料は、酸化しにくい太白ごま油1ℓと、ヨモギ600g。厚手のステンレス鍋に入れ、ヨモギが焦げないように混ぜながら、とろ火で80℃を30～40分。油がきれいな緑色になつたら完成です。粗熱を取つてから温かいうちに濾し、遮光ビンに小分けして常温で保存します。

このヨモギオイル、お風呂のお湯に2滴垂らしたり、洗顔後に薄く塗つたりするだけで肌

がしつとりするそうです。軽い火傷や虫刺されにも効果があつて「市販の薬でなくとも、自然のもので間に合うのよ」と、泉さんは話していました。

